

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691200020		
法人名	社会福祉法人 有誠福祉会		
事業所名	グループホーム 希		
所在地	徳島県名西郡石井町石井字石井1994番地		
自己評価作成日	平成29年9月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、訪問看護ステーションと契約・連携し、健康状態の維持向上に努めている。又、利用者様の定期通院・家族への連絡を密に行い、利用者様の体調管理に力を入れている。</p> <p>2、施設内の行事や隣接している施設とも連携を図り、行事に参加したり、共同で夏祭りを開催している。又、定期的 に、買い物や季節いあった外出支援を積極的に行っている。</p> <p>3、家族会を年に2回開催しており、定期的に現状報告を行い、情報提供している。</p> <p>4、余暇時間を利用して、ちぎり作業(内職)をして頂き、その収益は利用者様への誕生プレゼント等に充てている。5、利用者様に季節感を見て味わっていただけるよう、各階の壁面飾りを工夫している。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の広い敷地内にあるピオトープでは、近隣の人たちが、自然環境維持活動に訪し、利用者や交流している。同一法人の運営する併設の他サービス事業所と共同で行う各種行事には多くのボランティアや住民の参加を得ている。事業所は、利用者の健康管理に注意を払い、訪問看護ステーションや協力医療機関等と密に連携を図っている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会的役割やグループホーム独自の理念を認識し明確に掲げている。職員はホームの理念を再考して、共有することにより、日々のケアサービスに活かしている。	3年前に全職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。管理者と職員は理念を共有し実践している。職員は日頃のケアを振り返り、支援に理念が反映できているかどうかを相互に確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の保育所や併設施設の保育所より、園児が来園し交流を図っている。また併設施設(養護老人ホーム)に地元小学生が課外授業に来園したり各種団体の慰問に来ており交流を図っている。	地域や同一法人の運営する保育所の子どもたちとの交流がある。また、地域の小・中学生の課外授業等も受け入れている。職員は、近隣住民と一緒に地域の清掃活動に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と事業所職員により地域の清掃活動を実施している。敷地内にあるピオトープ気延の里を定期的に整備しており、休日等に、近隣の方が集まってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のサービス状況、現状等を報告し、意見等をふまえて改善しサービス向上につなげている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の現状報告を行い、課題について出席者と意見交換を行っている。出された意見を運営に活かしている。また、管理者がグループホーム全国大会において発表した論文について説明したりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議はもとよりそれ以外の場合においても常時、相談助言が得られる関係作りに努めている。	管理者は、町担当窓口を訪問するなどして、現状報告や事故報告書等を提出している。その際に、事業所の課題についても町担当者と協議を行い、アドバイスをもらうなどして、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者が抱える転倒、転落等のリスクに対して、身体拘束をしない介護上の工夫を行っている。玄関は安全上のため、必要な時間帯に限定して、暗証番号式のロックにて安全を確保している。	全職員は、研修や職員間の話し合いにおいて、身体拘束の内容や弊害の理解に努めている。玄関はできる限り解放し、外出しようとする利用者には、さりげなく付き添って散歩するなど、抑圧感のない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニットリーダーと定期的に情報の共有を行うと共に、職員研修や外部研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人・家族・地域住民に説明できるよう、研修や会議で学んだり、職員間で話し合っ て情報提供できるように心がけている。手続きなどはインターネット、資料を参考として勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を費やし相手が理解、納得するまで説明している。重要事項説明はもとより、苦情解決、個人情報の同意、看取り、身体拘束などについても相手が分かりやすく事細かく説明するよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催し、家族の要望など聞く機会を用意している。定期的な報告としては「希だより」を年4回、家族会を年2回開催しているが不定期的な急を要する報告は電話などをしている。	事業所では、家族の来訪時に、積極的に声かけを行い、話しやすいような雰囲気づくりに努めている。職員は、利用者の意見や希望を日頃の関わりの中で積極的に聞きとっている。また、家族会を組織し、率直な心情や意見も出してもらっている。出された意見は、事業所内で共有し運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が気安く話ができるように月1回以上のカンファレンスや職員会議等で、時間を十分設けており何でも話せる環境作りにつとめている。	管理者は、職員が話しやすい環境づくりに努めている。職員会議やカンファレンスなどの機会に職員から意見やアイデアを聞いている。出された意見等は協議し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意な分野を見つけ出し自信を持って取り組んでもらい各自の意欲向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には接遇マナー研修を受講しスキルアップのためには段階に応じた研修を受講し受講後は研修内容報告会を実施し、全職員で共有が出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などには積極的に参加し他の施設の職員と顔なじみになり、お互いが気安く交流できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者本人が何を望んでいるかじっくり聞き取りを行い、意思疎通が出来ない方には家族担当ケアマネより過去の生活状況性格、趣味、等を聞き出しそれに基づいて利用後の処遇方法に役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅時の家族の苦労やサービスの利用状況、グループホーム利用希望に至るまでの経緯について聞けるように心がけている。家族とも信頼関係が結べるよう何もかも話していけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	即入居を促すのではなく本人、家族の要望、状況をじっくり把握して必要とあればケアマネ、包括支援センターへつなぎ他方面から支援できるようにつとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人・家族の要望・状況をしっかりと把握し、家庭的な雰囲気のもと支援できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の体調や心情を細かく報告し、本人の意向に添える様、家族と情報を共有できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで築いてきた馴染みの関係を大切に頂く為にも、友人知人の面会もお願いしている。自由な面会の受け入れ、及び文書発送等も積極的に行っている。	事業所では、これまでの馴染みの関係が途切れることのないよう利用者の友人や知人の来訪を支援している。また、希望する場合には、家族や職員が付きそうなどして、行きつけの理・美容院等の利用を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人きりで過ごされる時間を減らしホールにて、レク・作業等を一緒に行い、楽しく過ごしていただけるよう環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方等は、時折、電話をしたり、入院病室へ様子を伺ったりして、状況の把握につとめ、場合によれば相談に乗るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を大切にして、出来る限り意向どりの暮らしが出来るように配慮している。意思疎通が困難な方に関しては、家族の意向または本人の立場に立って考え、よりよい暮らしが出来るよう配慮している。	職員は、利用者との関わりを通じて、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な方には、全職員が本人の視点に立って意見を出し合い、最良の暮らし方を検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはケアマネや家族などから丁寧に聞き取りを行い入居後も面会した折には再度過去の状況について聞き取りを行い詳しい生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の身体状況、認知度の状況を把握し、のびのび生活できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・サービス担当者会議などを通じて本人や家族のニーズに合わせたケアプランとなるよう努めている。	事業所では、本人や家族の意向を聞き、その人らしい暮らしを続けるための介護計画を作成している。全職員での意見交換やモニタリングを行い、現状に即した介護計画に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日常生活の様子、気づき等を個人ファイルに記入すると共に、申し送りノート等で常に情報の共有ができるように努めている。状態の変化にすぐに対応して、ケアの変更をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、美容院、外出、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な消防訓練の実施を積極的に行っている。又包括支援センターのソーシャルワーカー、訪問看護師等と連携を図りながら、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも気軽に相談でき、緊急時に対応してもらえる協力医療機関がある。	契約時の段階で、本人や家族に説明し、同意を得て、協力医をかかりつけ医としている。専門医への受診も、家族と職員が連携して支援をしている。受診結果は家族と共有し、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、毎週健康チェックしており、利用者の健康状態の把握ができて、適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護師や入院病棟スタッフの協力のもと、健康状態を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時や家族会・ケアプラン説明時等に、利用者様の現状を伝え要望をお聞きし、終末期に向けて家族の要望に添えるように努めている。	入居時の段階で、本人と家族に重度化した場合の事業所の方針等を説明し、同意を得ている。利用者の心身状況や家族の希望の変化に応じて話し合いを繰り返し、協力医療機関と連携を図りながら希望に沿えるようチームで支援する体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設マニュアル、過去の事例をもとに管理者を中心として定期的にカンファレンスをし、毎年救急の日(9/9)には、救急蘇生の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行っている防災訓練を通して災害時における対応策を学んでいる。又、近隣住民、隣接する関連施設への救助要請をできるようにしている。	事業所では、火災時や災害時のマニュアルを作成し、年2回、同一法人の運営する併設の他サービス事業所と合同で、消防署の指導のもと、避難訓練を行っている。運営推進会議では、近隣住民に参加を呼びかけるなどして、日頃から協力体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			希 1	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には気を配っている。特に本人の主張することは拒否しないで傾聴し受容するように心がけている。	職員は、利用者の言葉にできるだけ耳を傾け、本人の自尊心を傷つけないように心がけている。また、援助を必要とする時には、本人の気持を考え、プライバシーに配慮した、さりげないケアを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の意見や希望を重視し大切にしている。又、訴えのない方には選択肢を設けたりして意思を表せるよう配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間がかかっても相手のペースに合わせ見守ることが必要、手を出しすぎないように心がけ、出来ていないことや間違っていることは、共に後からフォローするようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院は外出も兼ね馴染みの美容室や理髪店へ送迎しており、パーマ等おしゃれしている。身だしなみも季節や気温や場に合わせることは勿論体調に合わせて快適に暮らせるようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は音楽を聴きながら、和やかな雰囲気の中一人一人が自分のペースで食事をとることができるよう十分な時間を確保し実施しています。	事業所の献立は、同一法人の運営する併設の他サービス事業所の管理栄養士が作成しており、バランスのとれた内容となっている。食事の際は、静かな曲の流れる中、ゆっくり食事が摂れるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない(ばらつきがある)方には、医師や管理栄養士に相談し栄養補助食品を利用している。水分摂取量のチェックを行い定期的にお茶の時間を設けている。少ない方には声かけし一定量摂取できるよう努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の洗浄や歯磨きなど食後や就寝前の口腔内の衛生に努めている。声かけ誘導を行い、清潔保持に努めている。又、毎月歯科検診(往診)があり必要があれば、受診して治療している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の誘導や介助はプライドを傷つけないよう配慮して行っている。排泄記録を使用し排泄パターンを把握することによりなるべく失敗しないよう支援している。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。夜間は時間を見計らってトイレへの誘導を行ったり、ポータブルを使用したりして一人ひとりに合わせた支援を行っている。失敗することもあるが、トイレに行くことが利用者の自信となり、快適な生活に繋がるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを活用している。下痢状態があるときは粥食にしたり、その時の体調に合わせて柔軟に対応している。また、便秘に関しては、歩行訓練、体操、繊維食摂取等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人時間をかけてゆっくりと入浴して頂いています。本人の体調や希望で入浴日の変更もしています。	事業所では、利用者一人ひとりの体調面に配慮しつつ、希望に応じて入浴することができるよう支援している。入浴を拒む方にも、声かけの工夫やタイミングを変えることで、少なくとも週2回は入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく自宅で使用していた布団、枕等を使用いただき馴染みのある環境作りに努めている。夜は安心して深い眠りが取れるように昼間はなるべく活動するように支援して生活リズムの調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬について説明書を全スタッフが目を通すように徹底している。服薬の際には、必ず、日付・朝・昼・夕・名前を確認の上、服薬していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意分野を役割とし、洗濯ほし、洗濯たたみ、掃除などそれぞれ持てる力を発揮して楽しみながら行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時などは敷地内のビオトープに出かけて行き自然を満喫したり、近所の方と話をしたりして過ごしている。又家族との外出、外食など一緒に出かけられるような場面や機会を作っている。職員の付き添いで買い物・喫茶等にも出かけている。	職員は、日常的に利用者が外気浴や日光浴ができるよう支援している。敷地内に自然を守るためのビオトープがあり、近隣の住民の方と一緒に出かけている。家族の協力を得て、外食に出かけたり、誕生日には利用者が希望するところに職員と出かけたりして、自由な外出を支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の金銭管理は、本人の能力に合わせて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があるときは随時電話、手紙にて本人の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には四季折々の環境作品や花を飾ったり、利用者様の作品を掲示している。廊下には外出時や行事等の写真を飾り、季節感を味わって頂いている。	事業所内の共有空間は、清潔の保持に努め、リビングの壁には、利用者の描いた作品を飾りつけたり、廊下には行事の写真を展示したりしている。利用者が集う憩いの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり会話が可能なようにソファを配置したりゆっくり座れる場所を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内への持ち込みは火気を除いては自由としており、自宅で使用していた物に囲まれた生活ができるようにしている。又、ベットやタンスにおいても本人が使いやすい配置にしている。家族の写真や趣味の作品を飾っている。	居室には、利用者一人ひとりの希望に沿って、家族の写真や趣味の物品、辞書等多種多様な物品を持ち込んでもらっている。自分の居室で趣味を楽しんだり、ゆっくりと会話を楽しんだりできるよう、利用者一人ひとりに合わせた環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で可能な部分は出来るだけ自分で行っていただくようつとめている。又、転倒の危険性を低くして安全に自由に歩行できるよう配慮している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の自立を支援し、家庭的な環境を提供するべく理念を共有しケアサービスの向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の保育所や併設施設の保育所より園児が来園し交流を図っている。また併設施設(養護老人ホーム)に地元小学生が課外授業に来園したり老人会が定期的に慰問に来ており交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と事業所職員により地域の清掃活動を実施している。災害時の協力体制を構築している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のサービス状況、現状等を報告し、意見等をふまえ・改善しサービス向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議はもとよりそれ以外の場合においても常時、相談助言が得られる関係作りに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者が抱える転倒、転落等のリスクに対して、身体拘束をしないで、入居者の思いに寄り添い手助けできるよう心がけている。エレベーターは安全上のためやむ負えず暗証番号式のロックにて安全を確保している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修等で勉強会を行っている。介助の仕方・声かけをどのようにするか、職員間で話し合っより良いケアを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の方で成年後見人制度(保佐人)を利用している方があります。その仕組みや手続きなどはインターネット、資料を参考として勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を費やし相手が理解、納得するまで説明している。重要事項説明はもとより、苦情解決、個人情報同意、看取り、身体拘束などについても相手が分かりやすく事細かく説明するよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会などを利用し気のつくことなどを出しただけではない。定期的な報告としては「希だより」を年4回、家族会を年2回開催予定としているが不規則的な急を要する報告は電話などを行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が気安く話ができるように月1回以上のカンファレンス・職員会議等において時間を十分設けており、何でも話せる環境作りにつとめている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意な分野を見つけ出し自信を持って取り組んでもらい各自の意欲向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には接遇マナー研修を受講しスキルアップのためには段階に応じた研修を受講し受講後は研修内容報告会を実施し、全職員で共有が出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などには積極的に参加し他の施設の職員と顔なじみになり、お互いが気安く交流できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者本人が何を望んでいるかじっくり聞き取りを行い、意思疎通が出来ない方には家族担当ケアマネより過去の生活状況性格、趣味、等を聞き出しそれに基づいて利用後の処遇方法に役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅時の家族の苦労やサービスの利用状況、グループホーム利用希望に至るまでの経緯について聞けるように心がけている。家族とも信頼関係が結べるよう何もかも話していけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	即入居を促すのではなく本人、家族の要望、状況をじっくり把握して必要とあればケアマネ、包括支援センターへつなぎ他方面から支援できるようにつとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人・家族の要望・状況をしっかり把握し、家庭的な雰囲気のもと支援できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、本人の体調及び現況報告をし、情報を共有できるように努めている。面会時に、本人の体調及び現況報告をし、情報を共有できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで築いてきた馴染みの関係を大切に頂く為にも、友人知人の面会もお願いしている。自由な面会の受け入れ、及び文書発送等も積極的に行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人きりで過ごされる時間を減らし、ホールにて、レク・作業等を一緒に行い、楽しく過ごしていただけるよう環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方等は、時折電話をしたりし、状況の把握に努め、場合によって相談に乗るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を大切に、出来る限り意向どりの暮らしが出来るように配慮している。意思疎通が困難な方に関しては、家族の意向または本人の立場に立って考え、よりよい暮らしが出来るよう配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはケアマネや家族などから丁寧に聞き取りを行い入居後にも面会した折には再度過去の状況について聞き取りを行い詳しい生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の身体状況、認知度の状況を把握し、のびのび生活できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族のニーズに合わせたケアプランとなるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日常生活の様子、気づき等を個人ファイルに記入すると共に、申し送りノート等で常に情報の共有ができるように努めている。状態の変化にすぐに対応して、ケアの変更をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のニーズに合わせ努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族の要望に応じて、美容院、外出、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも気軽に相談でき、緊急時に対応してもらえる協力医療機関がある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の協力のもと、健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院への定期的受診により、看護師との情報交換に留意しながらサービスの向上に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時に、本人の体調及び現況報告をし、情報を共有できるように努めている。又、介護方針に変わりがないか確かめている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設マニュアル、過去の事例をもとに管理者を中心として定期的にカンファレンス、ロールプレイを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行っている防災訓練を通して災害時における対応策を学んでいる。又、近隣住民、隣接する関連施設への救助要請をできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には気を配っている。特に本人の主張することは拒否しないで傾聴し受容するように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の意見や希望を重視し大切にしている。又、訴えのない方には選択肢を設けたりして意思を表せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間がかかっても相手のペースに合わせ見守ることが必要、手を出しすぎないように心がけ、来ていないことや間違っていることは、共に後からフォローするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院は外出も兼ね馴染みの美容室に連れて行ってあげ、パーマ等おしゃれしている。身だしなみも季節や気温や場に合わせることは勿論体調に合わせて快適に暮らせるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は音楽を聴きながら、和やかな雰囲気の中一人一人が自分のペースで食事をとることができるよう十分な時間を確保し実施しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おにぎり・お粥食・キザミ食・ミキサー食と、食べやすく工夫し、むせる方には、とろみを入れている。食事量の少ない方においては、栄養補助食品を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の洗浄や歯磨きなど食後や就寝前の口腔内の衛生に努めているが嫌がる方の対応が難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の誘導や介助はプライドを傷つけないよう配慮して行っている。排泄記録を使用し排泄パターンを把握することによりなるべく失敗しないよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを活用している。下痢状態があるときは粥食にしたり、その時の体調に合わせて柔軟に対応している。また、便秘に関しては、歩行訓練、体操、繊維食摂取等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人時間をかけてゆっくりと入浴して頂いています。本人の体調や希望で入浴日の変更もしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく自宅で使用していた布団、枕等を使用していただき馴染みのある環境作りに努めている。夜は安心して深い眠りが取れるように昼間はなるべく活動するように支援して生活リズムの調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬について説明書を全スタッフが目を通すように徹底している。服薬の際、必ず、日付・朝・昼・夕・名前の確認の上服薬していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意分野を役割とし、洗濯ほし、洗濯たたみ、家庭菜園などそれぞれ持てる力を発揮して楽しみながら行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時などは近くのビオトープに出かけて行き自然を満喫したり、近所の方と話をしたりして過ごしている。又家族との外出、外食など一緒に出かけられるような場面や機会を作っている。又、職員の付き添いで買い物・喫茶等に出かけている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の金銭管理は、本人の能力に合わせて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があるときは随時電話、手紙にて本人の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には四季折々の環境作品や花を飾り自宅にいるという空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり会話が可能なようにソファを配置したりゆっくり座れる場所を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内への持ち込みは火気を除いては自由としており、自宅で使用していた物に囲まれた生活ができるようにしている。又、ベットやタンスにおいても本人が使いやすい配置にしてある。家族の写真や趣味の作品を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内への持ち込みは火気を除いては自由としており、自宅で使用していた物に囲まれた生活ができるようにしている。又、ベットやタンスにおいても本人が使いやすい配置にしてある。		